

---

# ある日、地球が消滅しました

真逆作家醒

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある日、地球が消滅しました

### 【Nコード】

N7331Z

### 【作者名】

真逆作家醒

### 【あらすじ】

タイトルの通りです。地球が消滅しました。これは人類滅亡から始まる物語です。

## 一話

ある日、地球が消滅しました。

そして帰り際の宇宙飛行士は言ったそうです。

「うー、ヒック。やははは、愛しの地球よ。<sup>マイホーム</sup>父さん帰ってきましてよーっとくらあ、ただい  
……地球、<sup>マイホーム</sup>がない……」

その後、帰る場所を失った宇宙飛行士の行方を知る者は居ない。それもその筈、人類自体が地球と共に絶滅してしまったのだから。

ほとんどの人間は、大事な人との別れを惜しむ間もなく。地球はいつの間に、無自覚に消えて無くなってしまったのです。あっけなく、何の抵抗も見せずに。

だけれど、たまたま月で活動を行っていた宇宙飛行士達が子孫を残し、月への定住を試みたそうです。結果、『<sup>↑ンライフ</sup>人類月面定住計画』は成功しました。

二十年ほどで滅びましたが。

そんな都合良く人類が生き残ったりはしません。

これは、

紛れもない現実なのだから。

むしろ、よく二十年ももったと褒め称えるべきです。そう、この世界は人間の都合の良いようには出来ていないのです。

人類に対して都合が良いのは人類だけ。自分に都合が良いのは自

分だけなのと同じように。

私達が今まで現実だと思っていたものは、人が人のために作った人工物なのです。

本当の現実とは、夢のように曖昧で不確かだ。

本当の現実とは、どこまでも幼稚で愚かだ。

その救いようが無いほどの無垢さは、ただ残酷なだけで。

現実とは酷く正直で、だからこそ取り返しが付かない。

現実とは酷く平等で、だからこそ理不尽にも寛容。

現実とは酷く現実的で、だからこそ終末は覆らない。

あんま現実なめないで下さい。いや、買いかぶらないで下さい。

ああ、我らの愛すべき世は、かくも非情であった。

## 一話（後書き）

二百パー趣味です。

ある日ふと書いてみた、それだけです。

不定期更新なんで、マイペースにやっています。

## 一話

「なるほど。で、お前がその宇宙飛行士だと？ 帰る場所がないから泊めると？」

「そうなんですよー。お願いしますよー。仕事から帰ってきたら家が焼け跡になってた、みたいなの。やははは参ったぜ」  
「帰れ」

バタン。

一切の迷いも躊躇も無く扉を閉める。

いやー、最近のガキは面白いこと言うな。あれか？ 春だからか？ 俺も舞い上がり過ぎないよう気を付けないとな。

「ちょ、待って下さいっ、待って下さいっば！ や、本当なんですよ！？ マジで母星消滅しちゃって、漂流中にたまたま不時着した星がここなんですっば！ 一晩でいいので泊めて下さい！」

玄関から立ち去ろうとすると、後ろでドンドン扉を叩く音が聞こえてくる。あー、うっさい。やかましいので仕方なく返事をする。

「知るか。つうか何でわざわざ俺の家なんだ」

「チヨロそうな家だったんで」

「じゃあな」

「や、冗談ですっ、冗談ですっば！ ほんのコスモスジョークですよ。私、会話の隙間にコスモスジョーク挟まないと死んじゃう体質なんです、なんたって宇宙飛行士ですからねっ。やははは」

「分かった。分かったからそのまま死ね」

なんだコスモスジョークって。宇宙共通の冗談みたいなものか？  
いやいや意味分かんねえし、絶対宇宙飛行士だからとか関係ねえ  
だろそれ。

「頼みますよー、このままだと本気で死にますよ？ 私、死にます  
よ？ あなたの家の前で餓死しますよ？」

「入れたら飯までたかるつもりだったのか、なおさら入れたくねえ。  
つうか夕チわりい脅迫すんな」

「一生のお願いですっ！ 入れて下さいっ！ と言うか今、外雪降  
つててめちゃくちゃ寒いんですけど！ 餓死する前に凍死しますっ  
て！」

「それはラッキー」

「ラッキー！？ 今ラッキーといたしましたか！ こんなに可愛らし  
いお嬢さんが凍え死にそうになっ  
てるのに最低な人間ですね！」

「にんげん？ なんだそれは。お前の妄想した宇宙人の名前か？

俺達は人間たみだろう、何ややこしいボケかましてんだ」

当たり前過ぎて知識の内ですらない常識だが、なぜだか説明しな  
ければならない気がするので説明しておこう。誰に説明しているの  
かも分からんが。

そう、誰もがご存知の通り、この惑星の名前は地九ちきゅう。簡単に言う  
と、その名の通り九つの惑星を大鉄橋ブリッジで繋いだ惑星群だ。それぞれ  
の惑星を別々の種族しゅぞくが統治している。

で、ここは人間族にんげんぞくの統治する星、地九第七惑星、ミーマー星。ミ  
ーマーの語源は知らん。なにやらこの星の最高責任者の趣味と、入  
間族という名が由来しているそうだが。

「人間！？ 人間と言いましたか！ わお、すげえ取って付けたよ  
うな名前ですねっ！」

「何わけの分からんことを……」  
「いやもう何でもいいです！ とにかく入れるだけでも、一歩だけでもいいので間借りさせて下さい、お願いしますっ。玄関でも倉庫でもトイレでもいいです、屋根さえ付いていけばいいのです！ なんですしたらお手伝いでも雑用でも言ってくれば何でもやりますんでっ！ せめてこの寒さだけでも凌がなければ本当に死んじゃいますよ……」

ぎゃーぎゃーうるさい甲高い声が、打って変わって悲壮なものになる。どうやら本当に困っているらしい。うーん、でもなあ。いきなり入（人）の家に押しかけて電波垂れ流す少女となんかと関わり合いになりたくないなあ。

ちなみに、その電波の内容を要約するところだ。

“私は宇宙飛行士なんですけど、いざ宇宙から帰ろうとしたら母星が消滅してたんです。帰る場所が無いんで泊めて下さい”というもの。

いやはや謎である。

チャイムが鳴り、こんな夜更けに誰だと扉開けたら美少女が、ってどんなラノベ展開だよ。

「あのー！？ 聞いてますー！？ 雑用やってやるから開けるっつってんですよー！」

お、元気になった。しかも生意気。

実際どうしよう。

このまま放っておくのは近所迷惑だし、それにさすがにこれだけ遅い時間に少女を一入（一人）で外に出しておくのは、いくら他人（他人）事に関心ゼロの俺でも多少気が引ける。

でも家に入れたら確実に飯を集られそうだ。それに他人（他人）は信用できない。このミーマー星で唯一信用出来るのは自分だけなのだから。

「うう……じゃあいいです。分かりました。諦めます、諦めますよ。私はここで凍えて死ぬのです。ですが、明日あなたは後悔することでしょう。焼け跡の前で冷たくなっている私を目の前にして、あなたは言うのです。今晚寝る場所どうしよう、と」

「燃やす気か！？ 死ぬ直前に俺の家を燃やす気か！？」

「少女はただ、暖を取りたかっただけなのです……」

「俺ん家を薪代わりにすんな！」

「えー、じゃあ今晚泊めて下さいよー。でなければ大人しく焼かれて下さい。風前の私は激しく燃えますよ？」

そんな蠟燭みたいな。

「だーもー、めんどくせーっ！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7331z/>

---

ある日、地球が消滅しました

2012年1月10日07時53分発行